

校長が伝えたいこと 『学びが好きになる』

先生の授業は変わりましたか？

「学ぶことが好きになる」学校づくりの二つ目は、授業です。

一昨年度から、新しい学習指導要領が実施されました。その大きな柱は4つあると考えています。

その中で、先生方に一番かわりが深いのが「主体的・対話的で、深い学びの実現のための授業改善」です。

それはどういう授業なのでしょう。「これがその授業だ！」というはっきりとしたものは私も説明できません。

そこで今年度は、「主体的・対話的で、深い学び」の姿をぼんやりとした中でも見えるようにしていきたい。そして授業をその姿に近づけることにより、少しでも子供たちを学ぶことが好きになるようにしていきたいと考えています。

そのためには、「今、なぜ、『主体的・対話的で、深い学び』が求められているのか」を考えることが大事なものになってきます。



ではなぜ「主体的・対話的で深い学び」なのでしょう？

「**方法**という悪魔に囚われないで、**目的**という、大事なものを思い出して」という歌詞があります（「RPG」SEKAINO OWARI）。本質をついているなと思います。

一番大切なものは、「なぜ『主体的・対話的で深い学び』の実現のための授業改善をする必要があるのか」「『主体的・対話的で深い学び』をすることで、児童にどのような資質能力を身に付けさせるのか」ということです。これが**目的**です。

結論から言うと、社会が全く変わったからです。

Society5.0（ソサエティ）という言葉が聞かれたことがあると思います。

ちなみに 1.0 は狩猟社会、2.0 農耕社会、3.0 が産業革命、4.0 がインターネットの情報化社会です。5.0 とは、「サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させた・・・」ちょっと何言ってるかわからないんですが、とにかく AI や I o t、ビックデータなど今までよりはるかな高度情報化社会になっているという変化です。

今までは、高度経済成長の名残で、モノを生産する作業の「効率性」が、社会から要求されていました。

豊かな知識と確かな技術（効率的にモノを生産するための）が求められていたのです。

それを持てば、良い大学に入れ、良い企業に就職し、お金という個人の幸せが担保されていました。その典型が「詰め込み教育」です。

しかしこれからは、Society5.0 やダイバーシティ（多様化社会）で、正解があるのかないのか、どれが正解なのか人によって違うという、未来が予測不能な社会に突入していきます。

その社会では、「パターン化された思考」では「解」を見つけられないのです。

2045 年には、シンギュラリティの時代が来るといわれています。

AI が汎用性（1 台が何にでも活用できる力）をもち、人間の能力を完全に超えるという時代です。

今ある半分以上の職業が、AI にとってかわられるそうです。

自動運転になれば、バスやトラック、タクシーの運転手はいらなくなります。

コンビニのレジの無人化も始まっています。

医療の世界もAI が遠隔手術を行う時代になっています。

クラスの児童全員がタブレットに向かって

黙々と学習する映像を見ると、もしかして我々教員も？と空恐ろしくなります。（安心してください「AI が発達してもなくなるであろう30の仕事」に「小学校の先生」は入っていました。中学の先生は入っていませんでした。逆に、高校、大学の教員は「なくなる職業」に入っていました。

ということは、**安心しないでください。教科書通りにしか教えられない教員は淘汰されるのです**）

そのような時代に力強く生きていくために必要なのが、望ましい3つの資質能力なのです。

その中でも特に「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」なのです。

それを身につけていく学習が「主体的・対話的で深い学び」です。つまりこの学びを実現する授業づくりは、**全国どここの学校・教員すべてに求められている責務**なのです。

いくつかの学校では、「主体的・対話的で深い学び」の探求が、指導要領実施前から進んでいます。

本校も今年度からその方向に向けて舵を切っていきましょう。

「空は青く澄み渡り、それを目指して歩く。和田小は「大丈夫」。
僕らはもう、一人じゃない。」

50代の初老の男にも、沁みる歌でした。（次回はその**方法**について考えていきます）